



株式会社東陽テクニカ (東証プライム：8151)

2025年9月期第1四半期 決算説明資料

2025年2月12日

“はかる”技術で未来を創る

 東陽テクニカ

1. 2025年9月期第1四半期 決算状況
2. 受注高・受注残高
3. 2025年9月期 業績予想
4. 企業価値向上に向けた直近の取り組み
5. 株主還元について

1. 2025年9月期第1四半期 決算状況

2025年9月期第1四半期 決算ハイライト

✓ 売上高：前年同期比 10.4%減

- ・脱炭素／エネルギー事業や情報通信／情報セキュリティ事業などが伸長したものの、米国でAD/ADAS※開発向けの大型評価システムが計上された前年同期には及ばず

✓ 営業利益：前年同期比 914百万円減

- ・売上総利益率の低下と海外事業の減収、販管費の増加などにより前年同期から大きく減少し、182百万円の営業損失に

例年Q1は季節要因によって取引量が少ないため、当期Q1の進捗は概ね想定どおり

当期は、下期に大型評価システムの計上を予定するなど、例年と比較して下期に売上・利益が伸びる計画

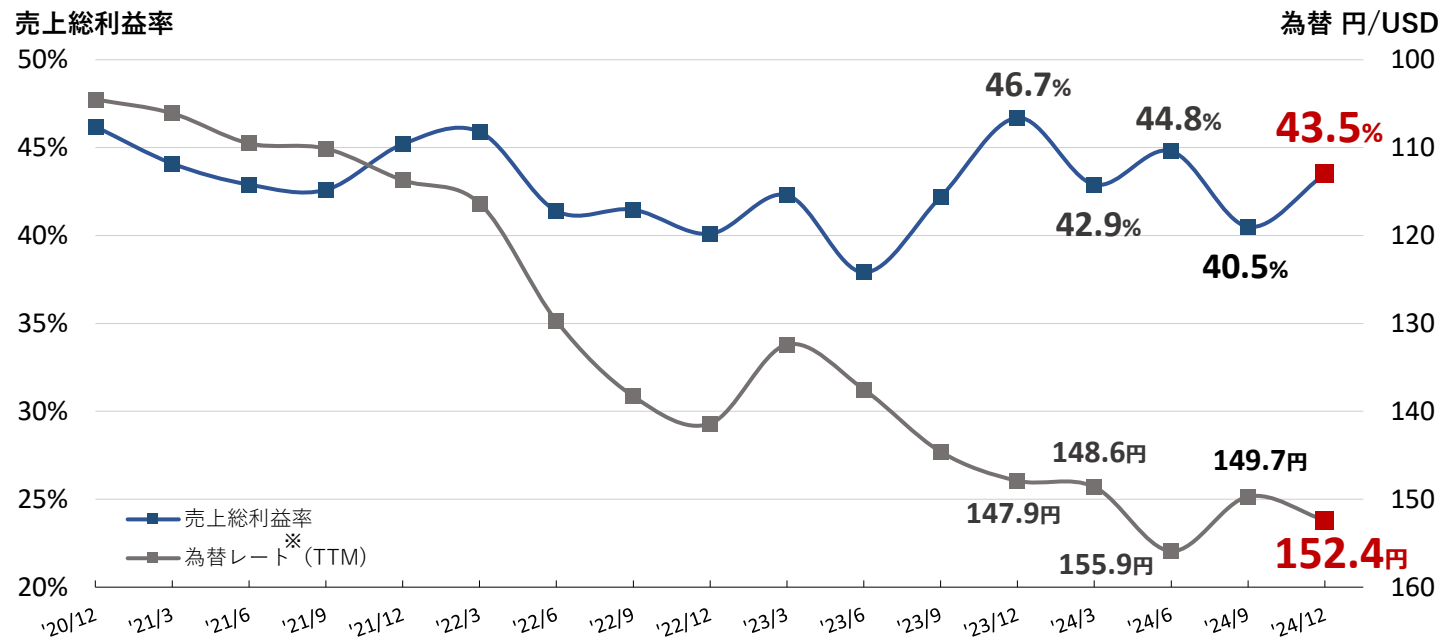
(単位：百万円)	2023年9月期 Q1実績	2024年9月期 Q1実績	2025年9月期 Q1実績	前年同期比	
				増減金額	増減率
売上高	5,512	6,944	6,223	▲721	▲10.4%
営業利益	▲169	732	▲182	▲914	-
営業利益率	▲3.1%	10.5%	▲2.9%	▲13.4P	-
経常利益	▲266	670	▲87	▲757	-
当期純利益	▲187	657	▲134	▲791	-

※AD=自動運転 (Autonomous Driving)、ADAS=先進運転支援システム (Advanced Driver-Assistance Systems)

為替と売上総利益率の推移

2025年9月期第1四半期の売上総利益率は**43.5%**

為替レートはさらに円安が進んだものの、前四半期比で3.0p上昇

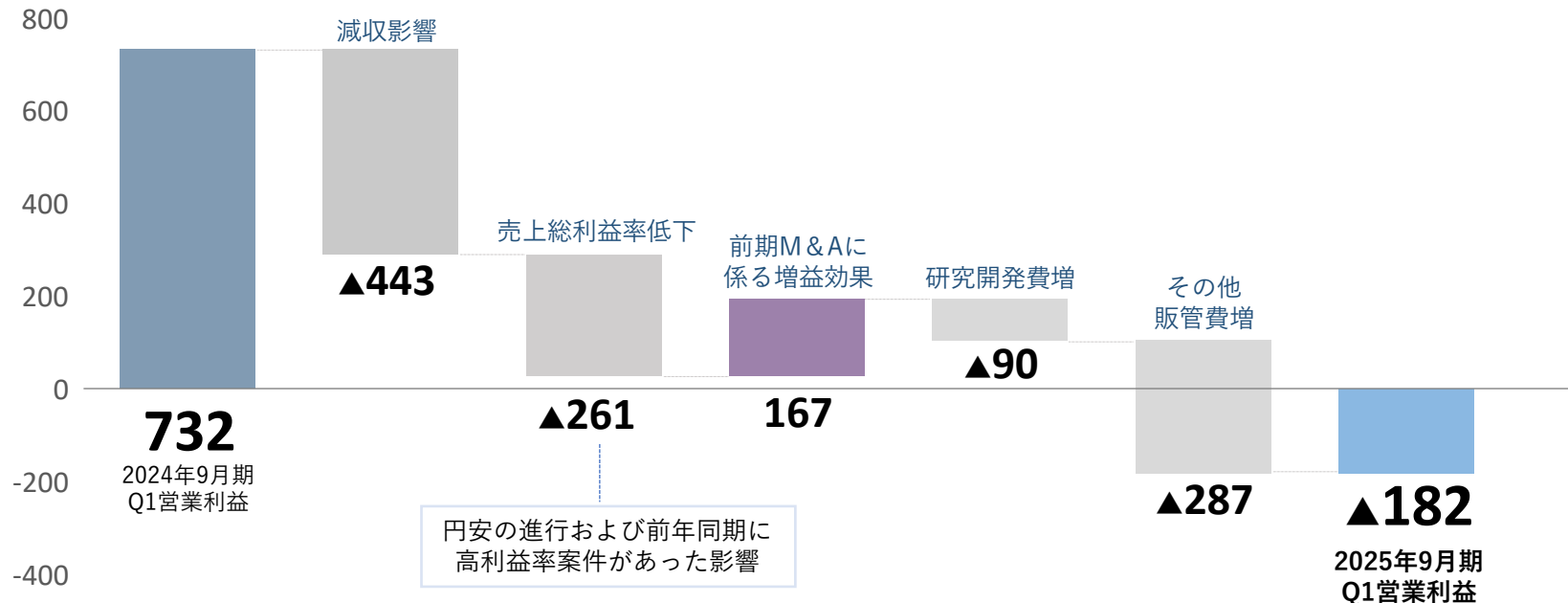


※3ヶ月間ごとの平均レート

営業利益増減要因（対前年同期比）

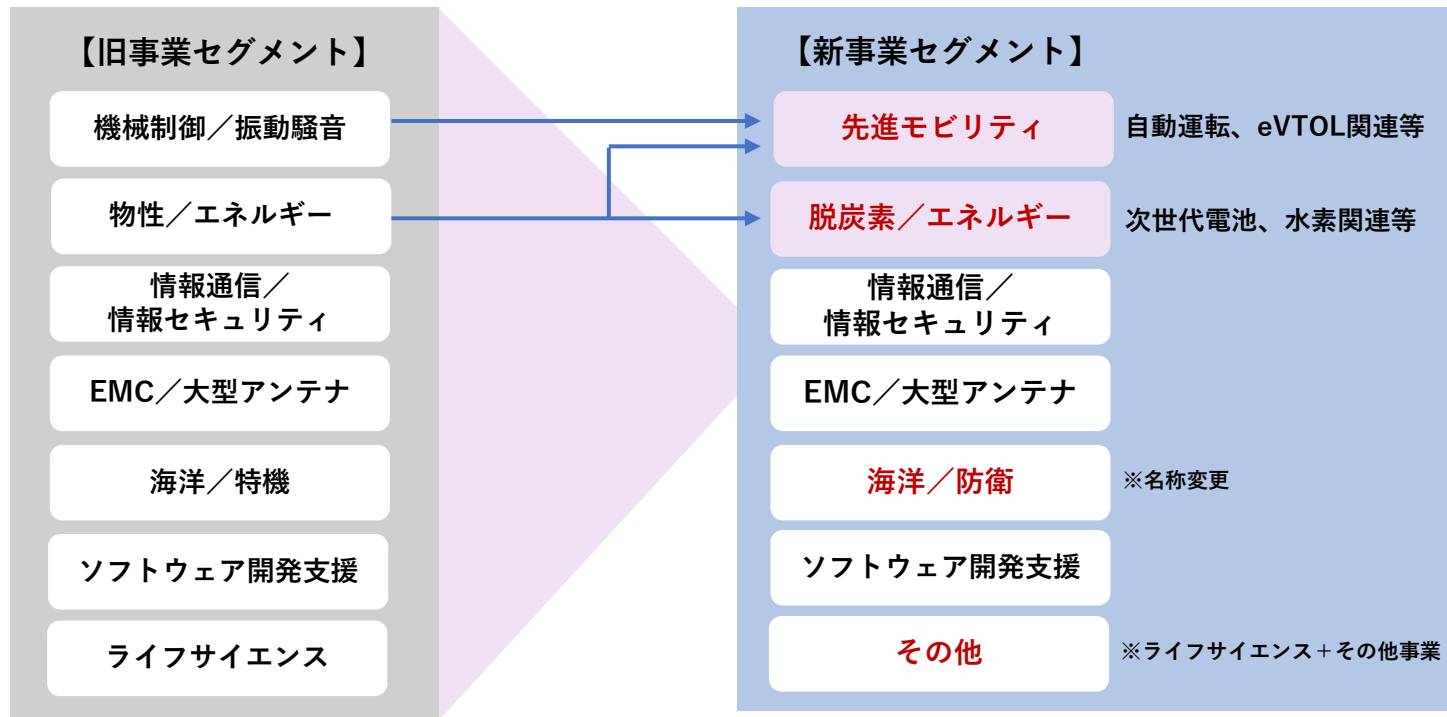
減収影響および売上総利益率の低下により減益

（単位：百万円）



事業ポートフォリオの組み換え

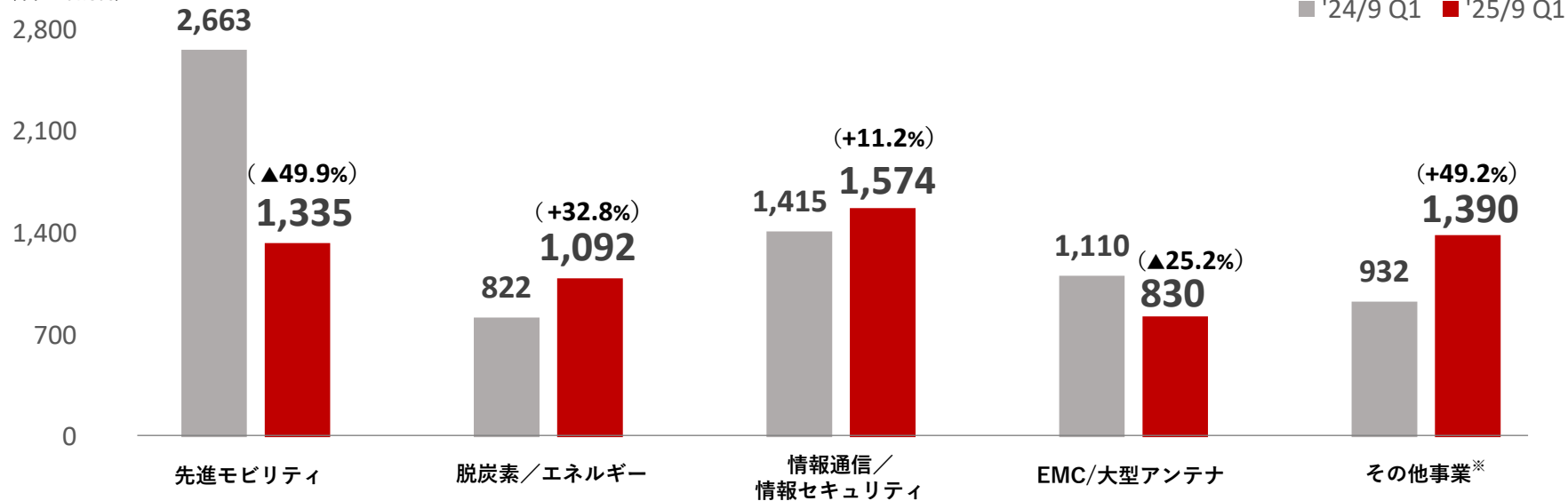
ターゲット市場ごとの事業戦略を最大限に発揮していくために、事業組織を一部改編
それに伴い、事業セグメント名称も事業内容を反映させて分かりやすく変更



セグメント別売上高 サマリー

先進モビリティ事業以外は概ね堅調に推移

(単位：百万円)



※その他事業には、「海洋／防衛」「ソフトウェア開発支援」「その他」の3事業セグメントが含まれます。

先進モビリティ

(単位：百万円)	2024年9月期 Q1実績	2025年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	2,663	1,335	▲1,328	▲49.9%
セグメント利益	844	▲75	▲919	—

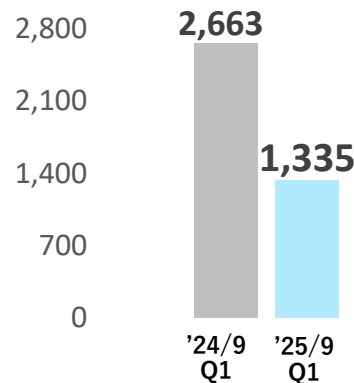


事業概況

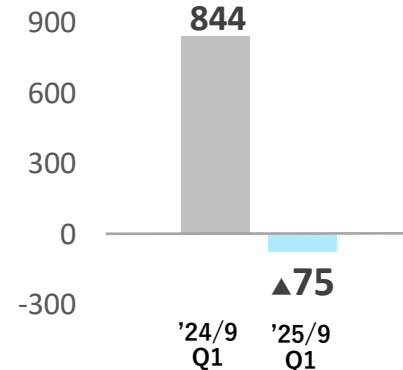
- 前期はAD/ADAS開発向けVILS（実車とシミュレーション環境を連携した評価・試験手法）分野の大型案件をQ1に売上計上したため大きく伸長。当期は同様の案件を下期に計上予定
- 売上高の減少により、利益も大幅に減少

売上高

(単位：百万円)



セグメント利益



セグメント別 売上高／利益分析

脱炭素／エネルギー

(単位：百万円)	2024年9月期 Q1実績	2025年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	822	1,092	+270	+32.8%
セグメント利益	118	60	▲58	▲49.0%



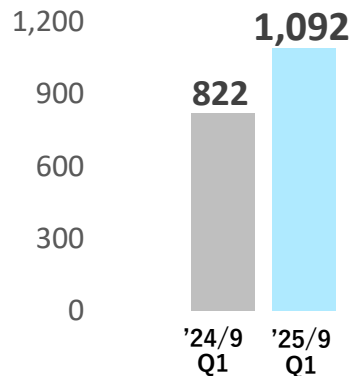
事業概況

- 全固体電池や水素関連製品が引き続き国プロ※の追い風を受け、売上高は増加
- 円安による仕入れ価格の上昇、買収した子会社の連結や人員増などによる販管費増加で、利益は減少

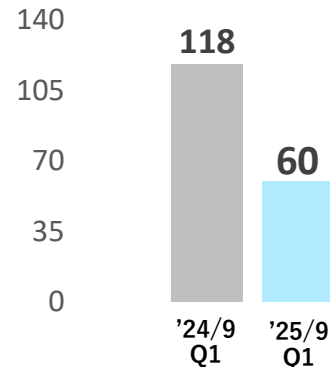
※国プロ：正式には政府研究開発プロジェクトといい、企業や研究機関が国の資金を活用して、社会的に影響のある研究開発を行うことができる制度

売上高

(単位：百万円)



セグメント利益



セグメント別 売上高／利益分析

情報通信／情報セキュリティ

(単位：百万円)	2024年9月期 Q1実績	2025年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	1,415	1,574	+159	+11.2%
セグメント利益	13	103	+90	+646.0%

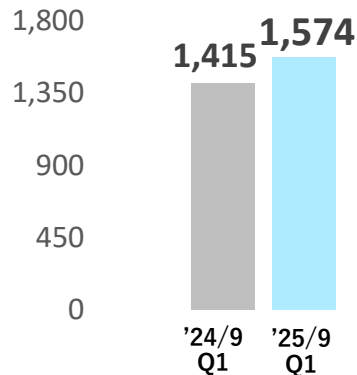


事業概況

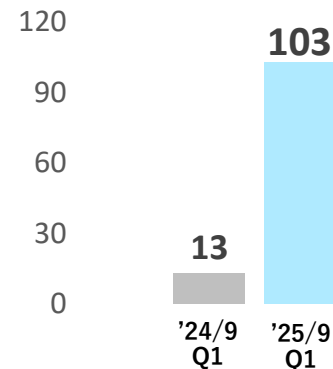
- 情報通信分野で大手通信事業者向けネットワーク性能試験やモバイルマッピングシステムの検収が順調に進んだことにより売上高が増加。情報セキュリティ分野では、一部案件の納入遅れなどにより減少
- 売上高の増加や人的リソースの最適化により、利益も増加

売上高

(単位：百万円)



セグメント利益



セグメント別 売上高／利益分析

EMC／大型アンテナ

(単位：百万円)	2024年9月期 Q1実績	2025年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	1,110	830	▲280	▲25.2%
セグメント利益	100	▲149	▲249	—

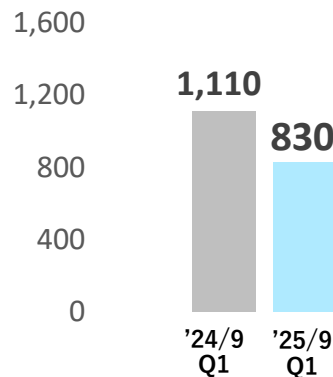


事業概況

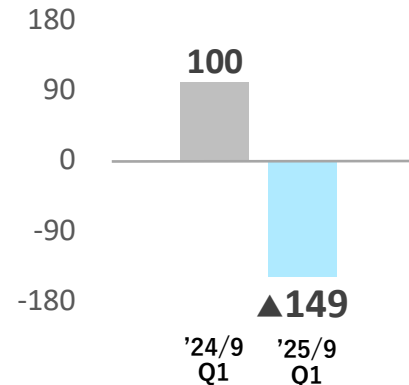
- 顧客の建設する電波無響室の完成遅れなどに伴い、複数の案件で納入遅れ（いずれも下期に計上見込み）が発生したことなどにより、売上高は減少
- 減収に加え、新製品の開発費を計上したことにより、利益は赤字に

売上高

(単位：百万円)



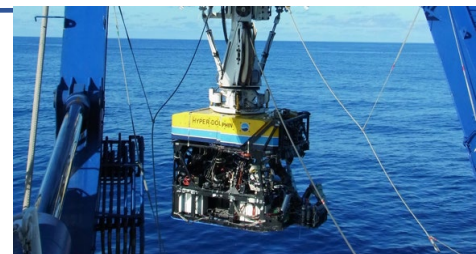
セグメント利益



セグメント別 売上高／利益分析

その他事業（「海洋／防衛」「ソフトウェア開発支援」「その他」）

(単位：百万円)	2024年9月期 Q1実績	2025年9月期 Q1実績	前年同期比	
			増減金額	増減率
売上高	932	1,390	+458	+49.2%
セグメント利益	41	5	▲36	▲86.3%

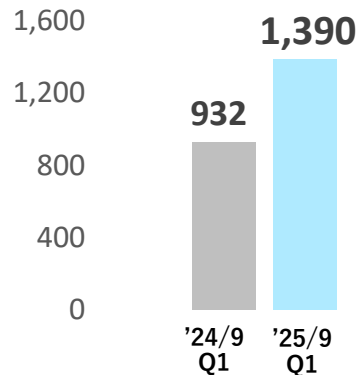


事業概況

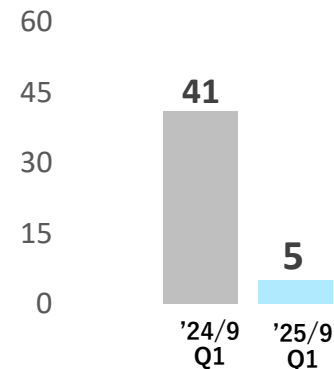
- 海洋／防衛事業では、官民向けともに堅調に推移し、売上高は増加。受注が大きく伸長しており、事業成長のための人員増による販管費の増加などで営業損失に
- ソフトウェア開発支援事業では、静的解析ツールのライセンス販売が復調、リカーリング堅調も、新規事業拡大のための人員増による販管費の増加により減益

売上高

(単位：百万円)



セグメント利益

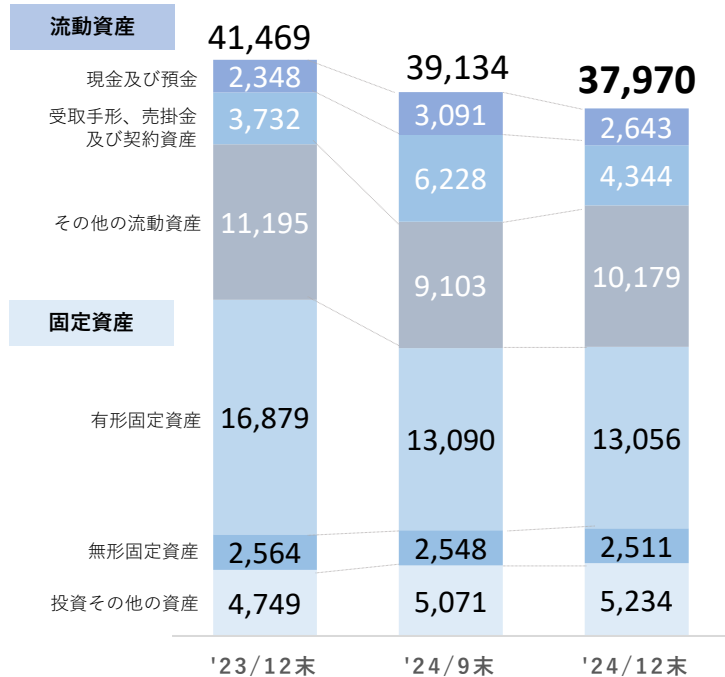


連結貸借対照表 主要項目

総資産

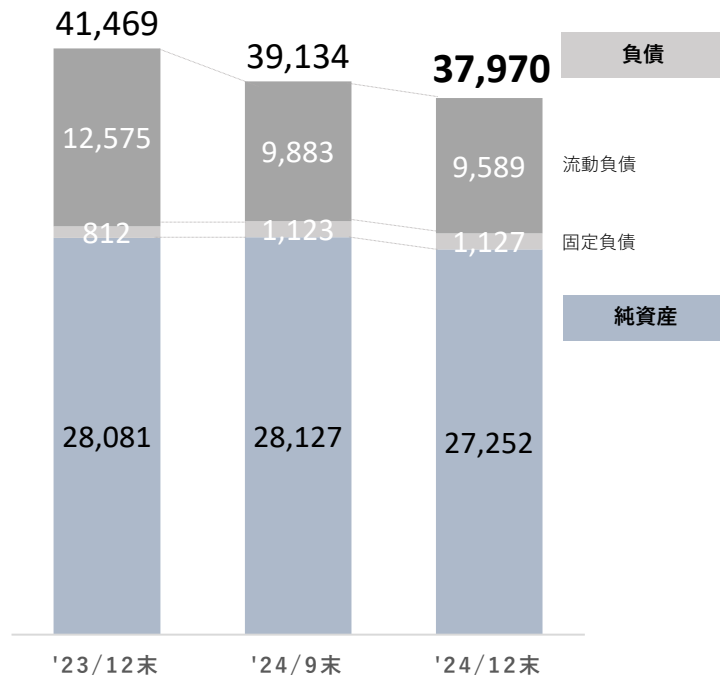
- 流動資産：「商品及び製品」が増加、「受取手形、売掛金及び契約資産」が減少
- 固定資産：「投資有価証券」が増加

(単位：百万円)



負債・純資産

- 負債：「支払手形及び買掛金」が増加、「賞与引当金」が減少
- 純資産：「利益剰余金」が減少



2. 受注高・受注残高

受注高・受注残高概況

✓ 受注高：前年同期比4,422百万円増

- ・海洋／防衛事業で最大規模の大型案件*を受注したほか、EMC／大型アンテナ事業、先進モビリティ事業も伸長したことなどにより、前年同期と比べ大幅に増加

✓ 受注残高：前年同期比3,747百万円増

- ・海洋／防衛事業、先進モビリティ事業などが伸長したことにより増加

(単位：百万円)	2024年9月期 Q1実績	2024年9月期 Q4（7-9月）実績	2025年9月期 Q1実績	前年同期比	
				増減金額	増減率
受注高	7,570	9,029	11,992	+4,422	+58.4%
受注残高	19,095	17,032	22,842	+3,747	+19.6%

*2025年9月期第2四半期決算発表時に概要説明予定

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：百万円)		'24/9 Q1実績	'25/9 Q1実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
先進モビリティ	受注高	2,014	2,608	+594	+29.5%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 振動騒音計測関連や航空宇宙関連などの受注が好調だったほか、EV充電関連の受注も堅調に推移 ■ 受注高の増加により受注残高も増加。今後、AD/ADAS大型案件の受注がさらに上積みされていく見込み
	受注残高	4,925	6,092	+1,167	+23.7%	
脱炭素／エネルギー	受注高	1,500	1,783	+283	+18.9%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全固体電池、燃料電池、水電解評価装置などの大型案件の受注により、受注高は増加 ■ 前期に売上計上が進み、期初の受注残高が減少となっていたことから、Q1の受注残高も減少
	受注残高	3,497	2,803	▲694	▲19.8%	
情報通信／ 情報セキュリティ	受注高	1,678	1,942	+264	+15.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 情報通信分野で大手通信事業者向け大型案件を受注したほか、自社開発製品である大容量ポケットキャプチャや情報セキュリティ分野の受注も堅調に推移 ■ 受注高の増加に伴い、情報通信分野を中心に受注残高も増加
	受注残高	3,310	4,104	+794	+24.0%	

セグメント別 受注高／受注残高分析

(単位：百万円)		'24/9 Q1実績	'25/9 Q1実績	前年同期比		事業概況
				増減金額	増減率	
EMC／大型アンテナ	受注高	791	1,693	+902	+113.9%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前期から発注延期となっていた複数案件の受注により、受注高は大幅に増加 ■ 受注高の増加に伴い、受注残高も増加
	受注残高	2,838	3,456	+618	+21.8%	
その他事業	受注高	1,584	3,964	+2,380	+150.2%	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海洋／防衛事業は、過去最大規模の大型案件を受注したことにより、受注高・受注残高ともに大幅に増加 ■ ソフトウェア開発支援事業は、前年同期並みの受注高にとどまる
	受注残高	4,524	6,384	+1,860	+41.1%	
(うち海洋／防衛)	受注高	733	3,354	+2,621	+357.5%	
	受注残高	2,145	5,250	+3,105	+144.7%	

3. 2025年9月期 業績予想

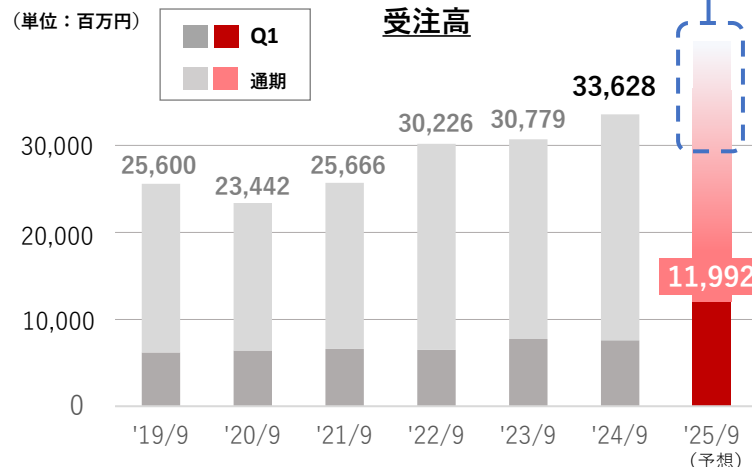
通期業績予想は変更なし

今期業績は例年よりも下期に伸びる計画であり、Q1の進捗率は想定どおり

期初の受注残高減少や中計初年度の成長投資により前期には及ばないものの、近年では高水準の売上高・利益となる予想

(単位：百万円)	2024年9月期 実績	2025年9月期 業績予想	前期比	
			増減金額	増減率
売上高	35,042	33,000	▲2,042	▲5.8%
営業利益	3,366	2,400	▲966	▲28.7%
営業利益率	9.6%	7.3%	▲2.3P	—
経常利益	3,375	2,400	▲975	▲28.9%
当期純利益	2,522	1,750	▲772	▲30.6%

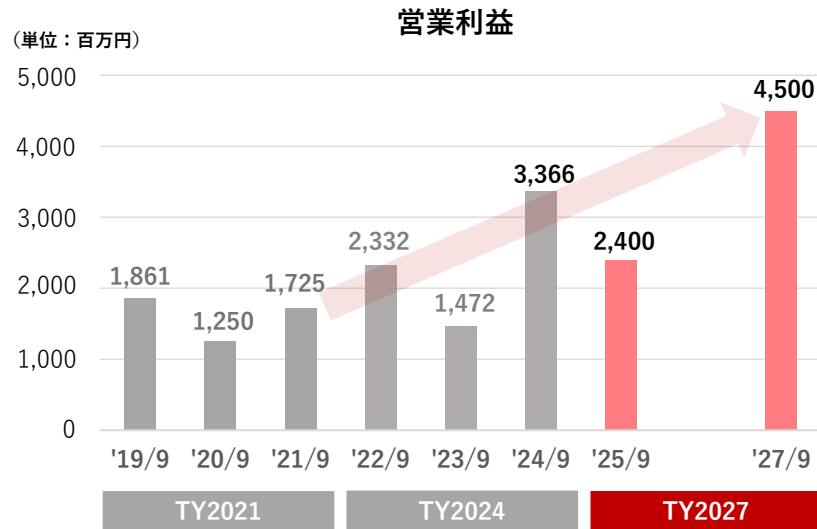
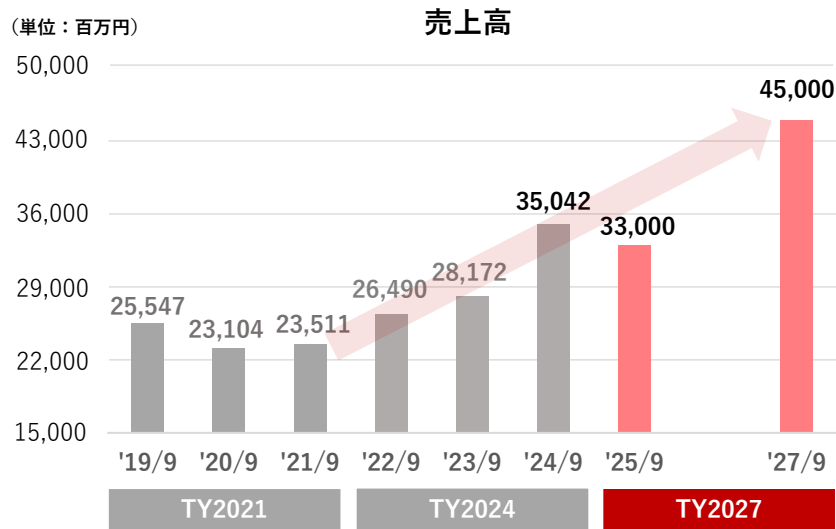
Q1で大型案件を受注。今後も受注は好調に推移し、今期の受注高は前期を大きく上回る見込み



中長期的な見通しについて

今期から新中計“TY2027”を始動しており、2027年9月期はさらなる成長を計画

- ・中計ごとの成長トレンドは不変。“TY2027”では各事業戦略の推進によって成長を加速し、**売上高450億円、営業利益45億円**を計画



4. 企業価値向上に向けた 直近の取り組み

企業価値向上に向けた直近の取り組み

油中粒子計測器「PI-1000」を発売

【その他事業】

- 自社開発製品として、各種産業機械内で使用される潤滑油の粒子を計測できる油中粒子計測器「PI-1000」を2024年11月に発売
- 機械の摩耗によって発生する潤滑油中の粒子を長時間計測する状態監視を行い、**適正なメンテナンス時期や予知保全を実現**することで、省人化や産業インフラの長寿命化に貢献

【想定されるターゲット】

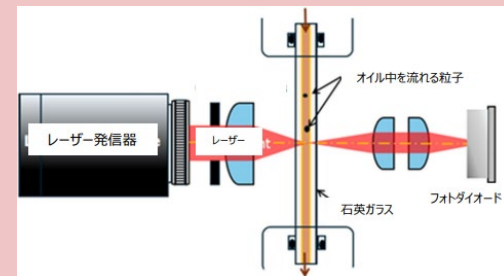
- ・ 自動車、電車
- ・ 風力・火力発電機
- ・ 水力発電等の水門など あらゆるオイル潤滑装置

- 今後、製品販売だけでなく**測定データの分析サービス**を提供する予定。分析結果から導き出せる適切な対応を提案



油中粒子計測器「PI-1000」

● 「PI-1000」における粒子計測の概念図



細かな粒子を測定するのに有効とされているレーザー遮光法を採用。独自の脱泡手法(特許申請中)で泡の誤検知をなくし、数ミクロン単位の高精度で測定が可能

参照URL：[東陽テクニカ製 油中粒子計測器「PI-1000」を発売](#)

5. 株主還元について

株主還元について

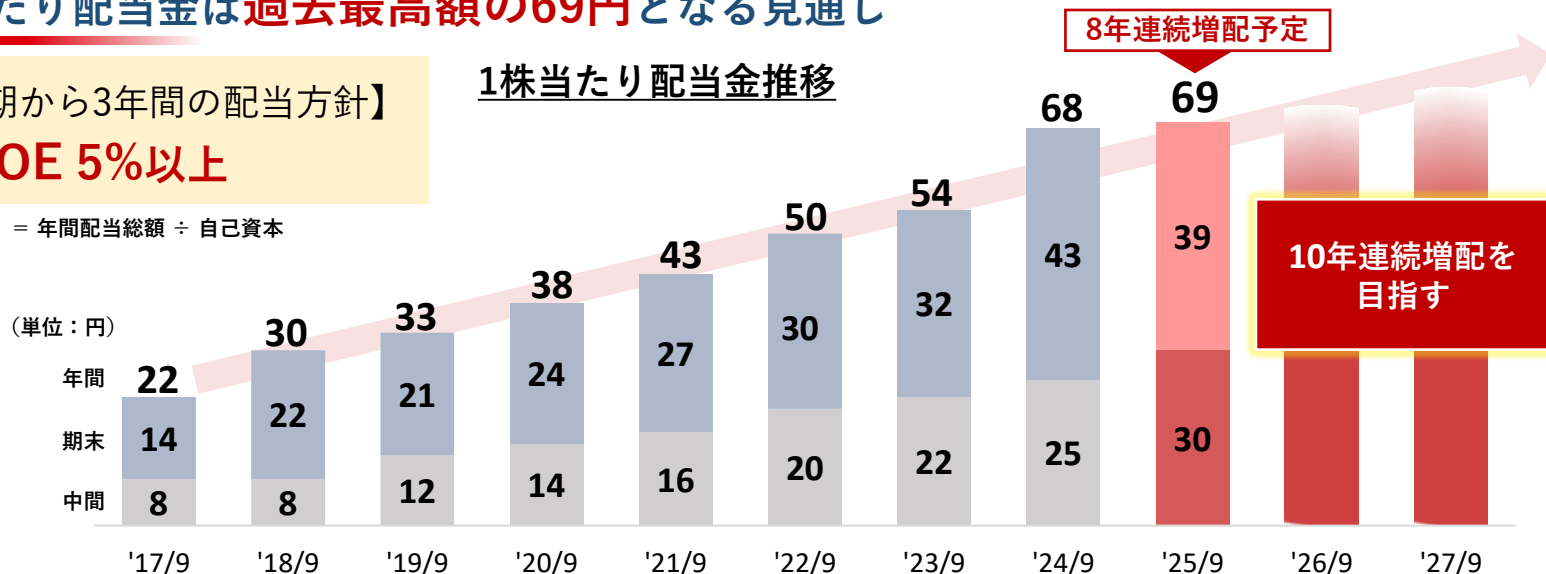
今期の1株当たり配当金は**過去最高額の69円**となる見通し

【2025年9月期から3年間の配当方針】

DOE 5%以上

※DOE（自己資本配当率）= 年間配当総額 ÷ 自己資本

1株当たり配当金推移



自己株式の取得：今後も成長投資とのバランスを見ながら適宜検討

直近の自己株式取得実績	取得期間	株式の種類	株式数	取得総額
	2024年8月8日～2024年10月3日	当社普通株式	936,600株	1,499,926,293円

IR ニュースメール

<https://www.toyo.co.jp/ir/mail-magazine/>



IRニュースメール
配信登録はこちら

当社のIR情報をタイムリーにメールでお届けいたします
ぜひご登録ください

IR サイト

<https://www.toyo.co.jp/ir/>
<https://www.toyo.co.jp/ir/management/plan/>

中期経営計画ページを
リニューアルしました

東陽テクニカが2030年に目指す姿

BreakThrough600

売上高600億円突破への挑戦



経営指標



本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp

“はかる”技術で未来を創る

